

説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～7◆

【指導のポイント】

説明的文章は「事実・例示」、「考察」、「問い」、「結論」などから構成されている。筆者はそれを段落ごとに構成し、論旨を展開している。接続詞や内容をもとに、各段落の関係を理解していくことは、筆者の主張を理解する正攻法である。ここでは、文章を構成する段落の持つ役割を考えながら、文章を理解することを目標にする。

確認問題の板書例

■筆者の主張

天体の動きを理解するという観点では、太陽を中心においた見方も、地球を中心にして、その周りをいろいろなもの回転しているという見方もある意味では同等である。

■展開

○運動⇨相対的

太陽を中心においた見方

←

同等

地球を中心においた見方

○コペルニクスの説と地球中心説の大きな違い

⇨コペルニクス説⇨地球が動く

⇨地動説

○地動説に対する反論

上から石を落とす

←

地球が動いているなら少しずれたところへ落ちる

←

いつも真下に落ちる

←

地球は動いている⇨でたため

○ガリレイ：反対⇨天文対話

一定の速さ、方角へ動く船からものを下に落とす

←

動いていてもいなくても、真下に落ちる

重要語句

- ガリレイ⇨科学者。コペルニクスの天動説を是認し、宗教裁判にかけられる。
- コペルニクス⇨天文学者。地球やその他の惑星は太陽の周囲をめぐるという地動説を発表。

演習問題Aの板書例

■筆者の主張

難しい問題にぶつかった時、それを括弧に入れて「ある時間」おいて、生きてゆくという大きい数式を計算し続けることが必要である。

■展開

○数学の例

初歩的な数学の多く

←

ギリシア以来の論理学から新しい学問としての記号論理学につながる

筆者：解析Iの方が解析IIより面白かった

←

文章に書かれた条件から数式を組み立てて、解いてゆく問題が好き

※「括弧でくくる」ことの重要性

○「ある時間、待ってみる力」が必要

←

難しい問題にぶつかった時、それを括弧に入れる

←

生きてゆくという大きい数式を計算し続ける

⇨

解決できていないけれど、もう少し待ってみよう、と考える

←

「ある時間」たつても問題がそのままのとき、それに立ち向かう

←

「ある時間、待ってみる力」が大事

←

だからこそ

←

子供の成長

←

「ある時間、待ってみる力」が大事

演習問題Bの板書例

■筆者の主張

日本人がよく使う「よろしく」とは、相手に責任を転嫁して、自分の責任を逃れようとする都合のいい言葉である。

■展開

日本人はいたるところで「よろしく」を連発

←

お志だけで結構です

例トウアレグ語

←

かんたんな単語で複雑な意味を表す言葉だった

←

コミュニケーションにとけこまない限り、外部の者にはとうてい理解できない

⇨

言語外のルール

←

コミュニケーションが同質であればあるほど、表現はかんたんです

←

言語の大半が省略されても意志はちゃんと伝わる

←

「よろしく」⇨同質環境における言葉のいい例

⇨

例外外国人

⇨

「よろしく」：相手の意志や判断を尊重

←

責任を相手に判断させる⇨責任逃れ

←

じつはこの上なく厚かましい言葉

説明的文章(2)

◆指導ページ P.8～13◆

【指導のポイント】

説明的文章では、ある事実・事例を挙げ、そこから提起している問いについて論じることが多い。文章中において、事実・事例とそこから論じられている主張を区別し、その論理展開を理解する必要がある。このとき、文末の表現を参考にすることが有効である。ここでは既知の事実と筆者の意見を区別し、筆者の主張を読みとることを目標とする。

確認問題の板書例

■筆者の主張

自然というものをよく観察して、そこにうまく順応していく方法を探し出して生活することが大事である。

■展開

○ひとつの住宅で快適に生活するにはどのような建物がいいか

自然条件↓今日、科学技術が対応

○西洋文明が入ってくる以前

自然の力は征服できない

←だから

自然をよく観察して、うまく順応する

○防風林の例

← 関西と関東以北では樹木が違う

・ 関西：常緑樹や竹

・ 関東以北：ケヤキ

ケヤキ：落葉高樹

← 夏は葉が多い茂るが、冬は落葉して枯れる

← 風を防ぐ必要があるのは、台風シーズンだけ

← 冬は風を防ぐことよりも、日照が大事

重要語句

○常緑樹⇨四季を通じて緑の葉をつける樹木。マツ・シイ・クスノキなど。

○落葉(高)樹⇨秋のはじめに葉が落ち、翌春に新葉が萌え出る樹木。

演習問題Aの板書例

■筆者の主張

贈りものに対する「お返し」は国によって違うが、深い心の触れ合いの象徴として物が交換される。

■展開

贈り物に対してお礼をする

← お返しをもらうと

← 「ごきんとうなこと」と言う(年輩の人たち)

← 「金当」

↓ 代金を現金でさっと払ってもらいたいとき

← つまり

← 二人の間に何の関係も残らない

← 贈り物をもって「物」で返さない

← その分だけ「心」の関係を維持する

← しかし

← 相手から何らかの返しがないと関係がぐらついてくる

・ ブータンの例

← すぐに物を返すのは失礼で、友情が確かになって、物によって関係が乱されないようになるまで、心の関係を保つことが大切

・ アメリカ留学の例

← 教育分析の料金⇨クリスマスの贈り物

■筆者の主張(まとめ)

← 本来の贈り物⇨物の関係ではなく、深い心の触れ合いの象徴

演習問題Bの板書例

■筆者の主張

自分の能力を自分で勝手に想像するのではなく、つねに客観的に知るようになることが望ましい。

■展開

自分の能力のあるなしは、どうしてわかるのか

← 比較して「ちがいがわかるわけではない

← 「ちがいがはつきりしないこと

← 自分自身の性格を知ることが重要

例 強気の人

← 自信が強く、実力があると思いがち

← しかし

← 実際に能力があるとは限らないので、おもわくがないときは「いいわけ」をする

← 良い点

← がんばって成功する人もいる

例 勝気の人

← 我が強く、負けず嫌いで、虚栄心が強い

← 他人をだましているうちに、自分自身もだましている

← 良い点

← 背伸びをして努力をすることがある

例 弱気の人

← 自信がなく、能力がないと思いがち

← ひどい失敗をしないが、成功もしない

■筆者の主張(まとめ)

← 自分の成長の妨げになる気性を反省し、自分の能力を客観的に知るようになることが望ましい

3

文学的文章(1)－小説①

◆指導ページ P.14～19◆

【指導のポイント】

人物、場面、事件の基本要素から小説を読み込んでいく。事件がどんな場面で登場人物に、どんな情景として映るかを捉えながら読んでいくことを目標とする。

確認問題の板書例

■場面

ホテルの部屋で、母と弟と私の三人で会話をしている

■情景描写

母⇨認知症を患っている
自分で意識してものを思い出さない
いまの母は違っていた

毎日のお弁当・父⇨苦労した話を思い出す

明るい楽しい思い出⇨弘前のお城の花見・園遊会など

母⇨表情が動かなくなった

殆ど覚えていなかった

答えるのが面倒になった

母は寝た⇨気恥ずかしい

私と弟とは部屋を出て、ホテルの庭へ行った

重要語句

- 平生⇨つねに、日頃から
- 弘前⇨青森県の地名
- 衛戍病院⇨旧日本陸軍の衛戍地に設置された病院。陸軍病院の旧称。
- 衛戍⇨旧日本陸軍において、陸軍軍隊が永久一地に配備駐屯する土地。

演習問題Aの板書例

■場面

台風が近づいているため、雨が降っている中、傘もささずに立っている少年を信雄が気にしている

■情景描写

子供⇨荷車のそばに傘もささないで立ちつくす

信雄⇨二階から少年を盗み見ていた(興味)

両親に気付かれないように階下へおりて、少年に近づいた

少年が鉄屑を盗もうとしていることに気づいた

少年⇨否定した

愛嬌のある、人を魅きつける丸い目・白い歯
⇨好意的な表現

二人⇨無言で睨み合う⇨理解

信雄と少年との交流⇨二人の会話が続く

信雄⇨少年のあとを追う・少年を真似る

少年⇨「寒ないか」⇨信雄を気遣う

重要語句

- 居丈高⇨すさまじい勢いで怒るさま。
- 欄干⇨橋・階段などの縁に、人が落ちるのを防ぎ、また装飾ともするために柵状に作り付けたもの。てすり。
- 屹立⇨高くそびえたつこと。

演習問題Bの板書例

■場面

ぼくが小学生の少年たちと学校のプールへ侵入しようとしている

■情景描写

ケンチ⇨ぼくをプールへ誘った

ぼく⇨少年たち(ケンチ・清実・総太郎)とプールに入る

白いノースリーブのワンピースを着た若い女性が仁王立ち⇨少年たちは見つかる

若い女性⇨若い先生

少年たち⇨怒る⇨すがすがしい・やわらかい

ぼく⇨一瞬ひどく困ったよう⇨困惑

ぼくに、父兄かどうか尋ねる⇨強い口調

気弱に言う

反省・困惑

重要語句

- 仁王立ち⇨いかめしく突っ立つこと。

4

文学的文章(2)－小説②

◆指導ページ P.20～25◆

【指導のポイント】

人物の感じたことや考えたことを読み込んでいく。人物の描写の変化から、心情の変化を追いかけることにも注意を払う。人物がどんな場面で、どんな背景にいるのか読み取り、人物像を捉えることを目標にする。

確認問題の板書例

<p>夏休み明けに教師が、東京から来た転入生を紹介した</p> <p>■場面</p>	<p>五年生最初の二学期</p> <p>■心情</p> <p>転入生⇨若林稔：首に縲帯をまき、眼帯かけた小さな子 髪のを長く伸ばしている</p> <p>ぼく⇨アキラ：転入生に敵意・嫉妬</p> <p>ぼくが作文を読むよう、先生に言われた</p> <p>ぼく⇨先生が転入生を「若林くん」と呼んだことが気になった</p> <p>作文の朗読⇨いつもは楽しい</p> <p>今日は心が落ち着かない：意識</p> <p>作文を読んでいる間も転入生が気になった</p> <p>↓転入生に「負けんぞ」と心の中で呟いた</p> <p>創作の作文：先生に褒められるような作文</p> <p>教師⇨満足↓ぼく⇨ホッとすると：安心</p>
--	--

演習問題Aの板書例

<p>小学校5年のぼくがクラスメイトと馴染めないでいる</p> <p>■場面</p>	<p>昨日のお昼休み</p> <p>■心情</p> <p>悟↓ぼくのピンチを救ってくれた</p> <p>ぼく⇨クラスの男子たちに、どんなゲームが流行っているか知らないことをばかにされた</p> <p>悟⇨記憶力がいい・物知り博士</p> <p>ぼくをかばう</p> <p>男子たちが逃げる</p> <p>ぼく⇨すまない気持ち：謝る勇気がない</p> <p>転校を繰り返しているの、ぼくは友だちを作るのが苦手・普通に会話できない</p> <p>給食の片付けで、みんなが嫌がるカレーの入っていた器を進んで集めようとした</p> <p>悟⇨ぼくより早く集めた</p> <p>無表情で断る</p> <p>ぼく⇨悟のべたべたしすぎない接し方が新鮮</p>
--	--

演習問題Bの板書例

<p>俳句甲子園に参加するためには一人足りない</p> <p>■場面</p>	<p>茜、トコ、夏樹、真名⇨俳句同好会会員</p> <p>■心情</p> <p>理香⇨茜に俳句同好会の入会を誘われる</p> <p>茜が理香に俳句の印象の違いについて問う</p> <p>・「藻の花『や』わが生き方をわが生きて」</p> <p>・「藻の花『も』わが生き方をわが生きて」</p> <p>理香⇨「藻の花や」のほうが好きかも</p> <p>↓『も』は、口ごもる感じがして、ぱっとしない</p> <p>『や』（ア段の音）は明るい感じがする</p> <p>トコ先輩⇨ぱっと顔を輝かせる</p> <p>茜先輩⇨同意する</p> <p>一年生の二人（夏樹と真名）⇨納得</p> <p>理香⇨「人間の一番自然な発声は『ア』に近い音」</p> <p>だから『や』で言葉が切れるほうが好き</p> <p>トコ先輩⇨『や』を詠嘆という難しい表現ではなく、感情表現のための言葉と考えて、納得</p> <p>真名と夏樹のやりとり</p> <p>にぎやかな笑い声</p> <p>トコ先輩⇨『や』について新たなことに気づく</p> <p>茜先輩、真名、トコ先輩</p> <p>⇨理香を俳句同好会に改めて勧誘</p>
--	---

重要語句

○詠嘆⇨物事に深く感動すること。感動を声に表すこと。

文学的文章(3)－随筆

◆指導ページ P.26～31◆

【指導のポイント】

随筆は筆者の実体験に基づいて書かれているので、「～のようだ」「～みたいだ」といった比喩や筆者独特の表現が使われることが多い。話題に注目するとともに、筆者の情景を表す表現に注目し、読み込むことを目標とする。

確認問題の板書例

■テーマ
損や得について

■展開

同じ後悔をいつもくり返す…自分はつくづく駄目
 似た性格の持ち主がたくさんいると思う
 欠点を「ソッとする」とか「トクする」とかいった物差しで計る必要はない
 ひとりひとりが異なった個性
 欠点には長所の反面もある
 人が気にしている欠点には限りがない
 それによって
 「ソッをしている」と思うことがある
 欠点の多さを恥じ、悩む人こそ本当の人間的存在
 損をすることを恐れ、得をするために心をくだくことだけが、良い人生ではない
 努力をしても直らない欠点
 その人の最良の部分に根ざしている
 世間的な損が、大きな得に背中あわせかもしれない

重要語句

○虚栄心＝見栄を張りたがる心。

演習問題Aの板書例

■テーマ
安全について

■展開

タクシーを止めて乗り込むとき
 ささやかな運命論者になる
 例〈荒っぽい運転手の話〉
 腕は悪くないらしいが、ダイナミックな運転だった
 例〈都電が走っていた頃の話〉
 止まりそこねたオートバイが都電を待っていた人たちにつっこんで、老婦人をはねた
 例〈安全ピンで怪我をした話〉
 タオルに安全ピンをつけて寝たら、左ひじの内側に安全ピンが刺さった
 例〈背中の中の痛み〉
 寝ていたら、背中に洗濯ばさみがくつつき、ひょうたん型のあざが出来ていた
 安全という言葉がついていると安心してしまふ
 その分だけあぶない気がする
 「安全」という字…うさん臭い

重要語句

○運命論＝一切の出来事はあらかじめ決定されていて、人間が努力しても変化しないという考え。
 ○間隙＝ひま。すきま。

演習問題Bの板書例

■テーマ
鏡と自分の顔について

■展開

女↓鏡が好き
 さらに
 鏡に映った自分の顔なり姿なりが好き
 自分の顔は隅から隅まで知りぬいている
 しかし
 自分の知らない顔がある
 写真家と気まずい会話
 ある日
 気持ちがあふさがっていて写真を撮られなくなかった
 お互い退けなくなってしまった
 自分の顔を自分は大事にせず、言い争いの相手から大事にされた
 みすばらしく思えた＝反省
 翌日謝った
 私の知らない顔を撮ってもらおうと思った
 沢山撮った中から一枚が届いた
 私があまり逢ったことのない顔・私の知らない顔
 自分で知っている顔は狭い限度でしかない

【指導のポイント】

古典、特に古文について学習する。古文は文法や仮名遣いが現代の日本語と異なり、それを理解して読む必要がある。ここでは、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの対応を理解し、代表的な古今異義語にも触れる。また文に助詞を補うことも学習する。これら基本的事項を身につけ、古文を読解できるようになることを目標とする。

確認問題の板書例

<p>伊曾保物語 「イソップ寓話集」の翻訳。江戸時代に出版された。</p>	<div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■内容</p> <p>現代仮名遣い あひあつまりり↓あひあつまりり 言ひければ↓言ひければ 言ふ↓言う 終はらで↓終わらで</p> <p>現代語訳 せん議↓話し合った かの↓あの しからずは↓さもなければ かねて↓前もつて</p> </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■本文</p> <p>ねずみたちが大勢集まって話し合った 猫がひそかに近づいてくるから、油断して捕まってしまう どうしたらいいだろうか 猫の首に鈴をつければ良いのではないだろうか この中から誰が猫の首に鈴をつけようか 誰も名乗りをあげなかった</p> </div>
---	---

演習問題Aの板書例

<p>1</p>	<div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■内容</p> <p>現代仮名遣い 拾ひて↓拾いて 取りてゐたりし↓取りていたりし いづくともなく↓いづくともなく</p> <p>現代語訳 いづくともなく↓どこからともなく つひには↓とうとう</p> </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■本文</p> <p>猿が群がっている 子どもがいる猿↓子どもをおろす 自分は木にのぼる 子ども↓親が落としたどんぐりを食べる 驚がやってきた 猿をつかまえようとした 飛び降りて子猿を背中に乗せて逃げる 一匹の猿 木の枝をひきしぼって驚に投げた それを繰り返して逃げた = 頭がいい：感心</p> </div>
----------	---

演習問題Bの板書例

<p>2</p>	<div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■内容</p> <p>現代仮名遣い にはかに↓にわか びは↓びわ やはら↓やわら たまひけり↓たまひけり さぶらひて↓さぶらひて おほせられて↓おほせられて</p> <p>現代語訳 無益のこと↓無駄なこと にはかに↓突然に 刺されじ↓刺されまい やはらたまひけり↓そっと静かにお渡しになった 居り申しさぶらひて↓(ここに)いたから おほせられて↓おっしゃって 感ぜしめたまひけり↓感心されていらっしゃった</p> </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■本文</p> <p>大相国(藤原宗輔)が蜂を飼っていることを世間の人は無駄なことだとうわさしていた 鳥羽離宮で、突然蜂の巣が落ちてきて、多数の蜂があたりに飛び散った 周囲の人々はあわてふためいて、にげまどうばかり 宗輔は(落ち着いて)びわの実を取り、琴の爪で皮をむき、高く差し上げると 全ての蜂の群れがその実にとりついて動かなくなった そこで宗輔は蜂がついたままの実を伴の人にそっと渡した 上皇は宗輔が今ここにいたから無事にすんだのだと大いに感心なさっておほめになった</p> </div>
----------	--

【指導のポイント】

詩歌を読むための基本的事項を整理する。ここでは、詩、短歌や俳句の形式や特色を理解し、表現技法の特徴を捉える。またそれらの基礎事項を念頭に、具体的に詩歌に触れることも行う。その中で、それら表現技法が詩歌にもたらす効果を読み取ることを目標とする。入試などで問われることは少ないが、国語の基礎素養として身につけたい。

確認問題の板書例

<p>■内容</p> <p>A 雑草が生えている → 延び放題 → 人の姿を見失うほど → 見栄えなど気にせず、豊かな花をどっさり咲かせる</p>	<p>■表現</p> <p>現代仮名遣い 延びてゐる→延びている 胸のすく思ひ→胸のすく思い 見失ふ→見失う</p> <p>表現技法 反復法：くり返すことで強調している 倒置法：文の順序を入れ替えることで強調する 擬声語：鳴き声などを言葉で表現する 体言止め：体言で終わることで、意味を強める</p> <p>詩の種類 定型詩：字数や音数を揃えている 自由詩：字数や音数が揃っていない 散文詩：ふつうの文章のように表している</p>
--	--

演習問題Aの板書例

<p>■内容</p> <p>A 季語↓大根 句切れなし 季節↓冬</p> <p>B 季語↓天の川 初句切れ 季節↓秋</p> <p>C 季語↓つばくらめ 句切れなし 季節↓春</p> <p>D 季語↓さみだれ 句切れなし 季節↓夏</p>	<p>■表現</p> <p>2 句切れ：話題が変わるところや一息おくところ 字余り：五・七・五・七・七より多いもの 字足らず：五・七・五・七・七より少ないもの 直喩：「〜のように」などを使ってたとえる 隠喩：「〜のように」などを使わずにたとえる</p> <p>3 ■表現 季語：季節を表す言葉</p> <p>■内容</p> <p>A 二句切れ 体言止め 対句 B 倒置法 C 字余り D 字余り 直喩</p>
--	---

演習問題Bの板書例

<p>■内容</p> <p>ながい間女のまえに置かれていた → ほどよい大きさの鍋や釜 → どれほどの愛や誠実をそそぎいたたろうか → 台所↓正確に朝昼晩の用意 → その前に → あたたかい膝や手が並んでいた → どうして炊事を繰り返せただろうか → 無意識なまでの奉仕の姿 → 炊事が女の役目だったこと → 不幸なことではない → それは → 全部が愛情の対象のためだから</p>	<p>■表現</p> <p>1 口語：現代の言葉で書かれている 文語：昔の言葉で書かれている ← 口語自由詩</p>
--	---

【指導のポイント】

国語表現全般的な事項として、文章表現について整理する。文の単位(文章、段落、文、文節、単語)で理解する。文法的に正しい文、伝えたい意図が明確に表現できる文を書くことを学ぶ。また文章の構成についても学習し、それらを用いて明瞭な文章を書けるようにすることを目標とする。

確認問題の板書例

<p>(2) あなたは、ウサギのようにかわいい</p>	<p>7</p> <p>(1) サンタクロースに会えるなんて、夢のようだ</p>	<p>(2) 先生の一言に助けられた</p>	<p>6</p> <p>(1) 健康の秘訣は、よく食べます</p> <p>←</p> <p>健康の秘訣は、よく食べることです</p>	<p>(4) (3) (2) (1)</p> <p>兄は 高校生です↓主語・述語の関係 続いて いる↓補助の関係 食事は 済ませました↓修飾・被就職の関係 明るくて 優しい↓並立の関係</p>	<p>5</p> <p>(4) (3) (2) (1)</p> <p>父に↓連用修飾語 猫が↓主語 海↓独立語 雨降りなので↓接続語</p>	<p>4</p> <p>(1) ひらひらと↓舞う さわやかな↓風が たくさんの↓バラが 明日から↓出かける</p>	<p>3</p>
-----------------------------	---	------------------------	---	---	--	---	-----------------

演習問題Aの板書例

<p>(6) 8</p> <p>その雲はまるでクジラのようなだった。</p>	<p>(3) (2)</p> <p>遠くの方から ← 連体修飾・被修飾の関係</p>	<p>(1) 7</p> <p>静かに しましょう ← 連用修飾・被修飾の関係 国語と 英語↓並立の関係</p>	<p>(2) (1) 6</p> <p>昨日↓行きました 連体修飾語 今日のおやつは 連体修飾語</p>	<p>(2) (1) 4</p> <p>何は↓どうする型 ← 主語↓眺めは——述語↓すばらしい 何は↓どんなだ型</p>	<p>(1) 4</p> <p>主語↓私は——述語↓帰った</p>	<p>(3) (2) (1) 3</p> <p>あなたに↓連用修飾語 田中君でしたか↓述語 山田君↓独立語</p>	<p>(2) (1) 2</p> <p>あの・人・妙だ・うわさ・聞く 向こう・父・ゆつくり・歩く・くる</p>
---	--	--	--	--	--	--	---

演習問題Bの板書例

<p>(4) (3) (2) (1) 5</p> <p>覆って↓いく ← 並立の関係 補助の関係</p>	<p>(3) (2) (1) 4</p> <p>生まれ育った↓連体修飾部 彼に会えば↓接続部 そこにいる君↓独立部</p>	<p>(2) (1) 4</p> <p>旅人は↓踏み出したに ← 主語・述語の関係 もし↓わかったら ← 修飾・被修飾の関係 小さな↓かわいらしい</p>	<p>(2) (1) 2</p> <p>山田一郎、彼が本校の生徒会長だ。 ← 独立語+主語+修飾語+述語 疲れたが、私はまだまだ負けない。 ← 接続語+主語+修飾語+述語</p>	<p>(2) (1) 1</p> <p>自立語：昨夜・雪・ちらちら・降っ・いる 付属語：から・が・て 自立語：母・手作り・お菓子・とても・おいしい 付属語：の・の・は</p>
--	--	--	---	---